

筑波大学

東京大学

千葉大学

東京女子医科大学

自治医科大学

東関東・東京高度医療人養成ネットワーク
第4回シンポジウム

ACT-network は
医療人養成プログラムの
ブランドに成り得るか



2011.11.23 (祝) wed.

13:00~17:00

東京大学 鉄門記念講堂14階

プログラム

13:00 開会の挨拶 北村 聖 (東京大学医学部附属病院 総合研修センター総センター長)

第1部

13:10～13:50 基調講演Ⅰ **「救急医師であふれかえる病院の秘密」**
演 者 今 明秀 (八戸市立市民病院 副院長・救命救急センター 所長・臨床研修センター所長)
座 長 三瀬 順一 (自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター 准教授)

13:50～14:30 基調講演Ⅱ **「成長戦略・ライフイノベーションとその人材」**
演 者 足立 信也 (参議院議員・筑波大学客員教授)
座 長 松村 明 (筑波大学附属病院 副病院長)

14:30～14:40 — 休 憩 —

第2部

14:40～15:40 パネルディスカッション **「持続可能な事業システムの構築」**
— 専門研修医をひきつけるシステムを維持するにはどうしたらよいか —

パネリスト **関東・信州広域循環型専門医養成プログラム**

菊地 麻美 (群馬大学医学部附属病院 臨床研修センター副センター長)

出島発、肥前の国専門医養成プログラム

小畑 陽子 (長崎大学病院 医療教育開発センター 医師育成キャリア支援室長)

東関東・東京高度医療人養成ネットワーク

中居 康展 (筑波大学附属病院 本事業コーディネーター)

司 会 齋藤 洋 (東京女子医科大学病院 本事業コーディネーター)

15:40～15:50 事業報告 阿久津博義 (筑波大学附属病院 本事業コーディネーター)

15:50～16:00 ご挨拶 田邊 政裕 (千葉大学医学部附属病院 総合医療教育研修センター長)

第3部

16:10～17:00 全体会議 **診療科ごとの分科会**

第1部

基調講演 I

演 題 「救急医師であふれかえる病院の秘密」

演 者 今 明秀 Akihide Kon
八戸市立市民病院 副院長
救命救急センター 所長
臨床研修センター 所長



略 歴 1983年3月 自治医科大学 卒業
1983年5月 青森県立中央病院初期研修
1985年4月 倉石村国保診療所所長
1986年4月 公立野辺地病院外科医師
1988年3月 六戸町国保病院外科医師
1990年4月 青森県立中央病院救命救急センター 外科医師
1991年4月 下北医療センター国保大間病院外科副医長
1993年4月 公立野辺地病院外科副医長
1998年4月 川口市立医療センター 救命救急センター副部長
2004年4月 八戸市立市民病院 救命救急センター所長
2006年4月 八戸市立市民病院 臨床研修センター所長兼務
2011年4月 八戸市立市民病院 副院長
(救命救急センター所長、臨床研修センター所長兼務)

専 門 日本外科学会専門医・指導医
日本救急医学会専門医・指導医
日本消化器外科学会認定医

八戸市立市民病院
2009年3月～ ドクターヘリ導入
2010年3月～ ドクターカー導入

救急医師であふれかえる病院の秘密

院長宣言：「医療の原点は救急にあり。当院は救急と高度医療を二本柱とする病院である。救急が市民にとってもっとも必要で身近な医療分野である」と院長宣言。著者がソロ救急医で赴任した7年前、救命救急センター（30床）には、14名しか入院していなかった。今は、満床となり、救命一般病棟43床まで持つようになった。
救急医を育てる：救急専門医を育てるには三次救急、ER、病院前救急（災害含む）、総合診療のフィールドとその指導者が必要だ。継続して人を集めるにはブランドになることだ。

三次救急：若者は何のために医師を志したのか。患者を助けるためだ。致命的疾患、外傷から劇的救命する瞬間を若い救急医に見せ、苦勞と感動をともにする。救急専従医は現在18名、認定救急看護師は7名で国内有数の三次救急体制になった。地方都市では三次救急患者が少ないが、ドクターヘリで遠方から集めてくれば問題ない。外傷、重症急性腹症を救急外科医が執刀する。救急外科研修に必要な病理解剖は年間40体。救急内科のメインは脳卒中と敗血症。

ER：救急医師と若手医師で一次から三次まで24時間対応する八戸ER患者数は年間2万人（救急車5千台）と疲弊するほど多くはない。ERから入院になる患者の60%を救命救急科が受け持つ。

病院前救急：病院前救急はエキサイティングだ。ドクターヘリ、ドクターカーは年間350件、800件出動する。これを同時連携出動させるサンダーバード作戦は13件。劇的救命は2年間で90例。

総合診療：発熱をERで鑑別し、感染症、神経系、膠原病も入院で受け持ちする。骨髄、肝、腎、筋、側頭動脈生検も自己完結できる。救急医が受け持つ入院患者数は、一日80から100名。

経営：救命救急科の診療収入は年間21億円で院内1位。入院レセプトで合計点数最高者は表彰される。

広報：後期研修医集めは診療の充実だけではなく、広報することも大事。研修医向け商業雑誌を中心に論文を2010年49編掲載した。医学生、研修医の当センター見学者数は年間130人と多い。

ニューブランド八戸：田舎、若い、一次から三次まで全部、多発外傷、劇的救命、ドクターヘリ、ドクターカー、経営良好これらのキーワードで検索したら八戸救命に行きつく。そうなることがブランド化であり、私の目標である。

第1部

基調講演 II

演 題 **「成長戦略・ライフイノベーションとその人材」**

演 者 **足立 信也** Shinya Adachi

参議院議員

筑波大学客員教授



略 歴	1982年3月	筑波大学医学専門学群 卒業
	1982年6月	筑波大学附属病院医員
	1988年4月	きぬ医師会病院外科診療科長
	1994年7月	筑波大学講師臨床医学系
	2003年1月	筑波大学助教授臨床医学系
	2003年4月	国立霞ヶ浦病院消化器科医長
	2004年4月	筑波メディカルセンター病院診療部長
	2004年7月	参議院議員
	2009年9月	厚生労働大臣政務官
	2011年1月	筑波大学客員教授

成長戦略・ライフイノベーションとその人材

平成2年度の国税の歳入は60.1兆円、22年度は37.4兆円、23兆円の減収です。他方、名目GDPは2010年で479兆円世界第3位、変動はありましたが1992年480兆円と成長は止まっています。国民一人当たりのGDPは2位ですが、男性が世界第2位で女性は第15位です。年金・医療・介護・福祉・子育て・雇用・労働の社会保障支出の増大が続く中で、日本経済を成長させ、税収を増やさなければなりません。我々は日本の新成長戦略として環境・エネルギー戦略（グリーンイノベーション）と医療・健康戦略（ライフイノベーション）を二枚看板として位置付けました。そこに東日本大震災が発災しました。国家存亡の時こそ、教育・人材育成が大切です。

関東・信州広域循環型専門医養成プログラム ～ 専門医育成と医師不足解消を目指して～

群馬大学、信州大学、獨協医科大学、日本大学、埼玉医科大学

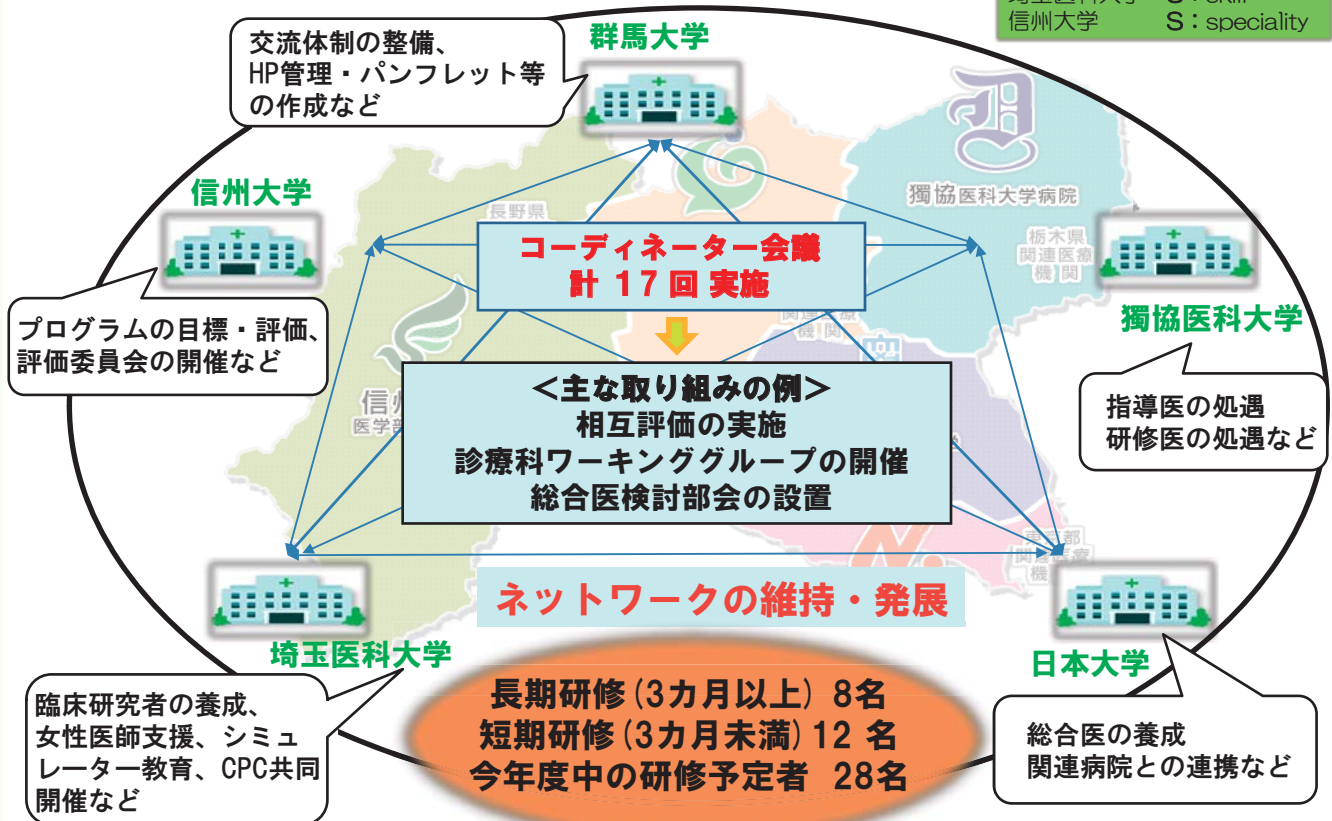
概要

関東・信州地域の大学病院とその関連施設における医師不足を解消するための5大学病院を中心とした循環型高度医療人を育成する取組である。このプログラムは、連携5大学のそれぞれの特色ある機能を生かしつつ、相互に機能を補完する環境の下で、指導医が高水準の医療を示し、リサーチマインドをもつ若手専門医を育成する。地域関連病院に指導医を優先的に巡回させることにより若手医師の臨床能力を向上させ、若手医師も連携大学病院間を循環することにより様々な患者や疾患を経験する。最終的にはチーム医療を担うことができる専門医を確保して地域医療の安定化を目指す。

関東・信州広域循環型専門医養成プログラム (GDNSS) の特徴

各大学病院がそれぞれのテーマの中心となり
5つのエンジンで事業を推進

群馬大学	G : good
獨協医科大学	D : doctor
日本大学	N : next
埼玉医科大学	S : skill
信州大学	S : speciality



文科省中間評価の結果

総合評価A

- ・全体的にバランスよく取り組まれているが実績を上げるために、次の段階へのステップアップに期待したい。
- ・総合内科医コースがあり、地域医療を志す医師を受け入れやすい。
- ・連携5大学が医師を派遣している計566の関連病院・施設に関する現状調査で見える化ができています。
- ・地域の課題を正しく把握し、事業計画を立案しPDCAを着実に回す取組がなされている。

出島発、肥前の国専門医養成プログラム

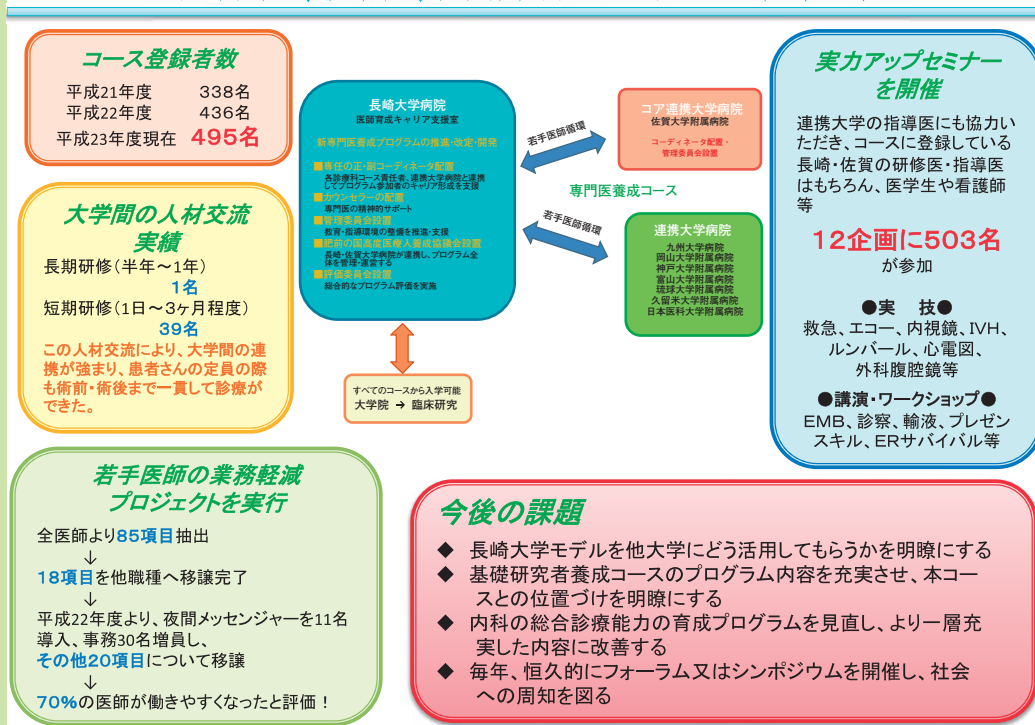
長崎大学・佐賀大学・九州大学・岡山大学・神戸大学

・富山大学・琉球大学・久留米大学・日本医科大学

概要

歴史的に関連深い長崎・佐賀両県の大学病院（長崎大学病院・佐賀大学病院）が、その関連医療機関を含め、緊密に連携する。さらに、全国の連携大学病院と協力し、相互の優れた点を活かした専門医育成を行い、西九州地区への専門医の定着を図る。若手医師にとって魅力ある専門医コースやキャリアパスを明確に示し、専門医資格取得の支援を行う。全ての専門医の研修状況を把握し、目標達成に向けて、関連部署の協力の下、人材の適正配置を考慮した循環を行い、地域医療の重要性を認識した質の高い専門医や臨床研究者の育成を目指す。長崎大学が従来から取り組んでいる卒前・卒後の離島・へき地医療教育や感染症教育・国際医療を組み入れることで、より地域性・国際性豊かな、また、感染症医療に長けた人材の育成が期待される。さらに、女性医師のキャリアを正確に把握し、女性医師の復職を支援し、地域医療の充実に繋げる。

出島発、肥前の国専門医養成プログラム



文科省中間評価の結果

総合評価A

- ・ 専門医養成を、医局単位から病院長下の専門部署の担当とした。小規模ながら大学内の医局の壁を取る意識改革への取り組みが進んでいる。本事業の趣旨に添って前向きに取り組んでいる。
- ・ 研修医、指導医を含め、大学間の相互連携に努力している。連携大学との相互補完的乗り入れが実質化しており、その成果は評価できる。大学連携の具体的な成果がみられる。
- ・ コーディネーターも積極的に活動し、十分に機能している。
- ・ 大学病院のマッチング数、後期研修医数、関連病院への短期研修者が増加した。
- ・ 総合診療医養成コースが機能している点では評価できる。
- ・ 地域の特性を生かして事業を進めている。離島や地域医療に対する危機感を認識し、学内でのコンセンサスも得られている。
- ・ 修練医の意識調査や病院側のアンケートを行い、修練医の環境改善を図っている。
- ・ 本プログラムの事業を検討する「肥前の国協議会」に、行政の長崎県、佐賀県が参加している。また、長崎県で、教育研修の充実を目指して、長崎大学と全ての教育基幹病院が協議会（新・鳴滝塾）を作り、長崎県も参加している。行政が加わっている点は特色があり、評価したい。
- ・ ホームページが非常に充実しており、何をやりたいか、どういことをやったかというのがよくわかる。
- ・ 長崎大学中心の計画という問題はあるが、大学連携、地域連携を柱にした成果が上がっていると考えられる。

東関東・東京高度医療人養成ネットワーク Advanced Clinical Training Network

筑波大学・東京大学・千葉大学・東京女子医科大学・自治医科大学

概要

東関東・東京に位置する5つの大学病院が緊密に連携・協力し、それぞれの得意分野による相互補完を図ることでより完成度の高い魅力ある研修プログラムを提供する取組である。この事業では、それぞれの大学病院における医師キャリア形成システムを充実させるとともに指導体制の強化をはかり、お互いの人事交流を活発化させることで、若手医師が将来に希望を持ちながら安心して研修に専念できる体制を構築するものである。そして本事業の特徴は、複数大学で支える地域医療連携拠点病院を置いて、各大学が緊密な連携を取りながら戦略的に人事配置を行うなど、若手医師の効果的なキャリアアップと地域医療の充実を両立させることを目的としたコーディネートを行うことで、国民の要請に応えられる質の高い専門医や臨床研究者を数多く養成するとともに、地域医療に貢献することである。

東関東・東京 高度医療人養成ネットワーク Advanced Clinical Training-network

大学間の人材交流

長期研修(半年~1年間)に 6名

短期研修(1日~3ヶ月間程度)に15名

が参加した

5大学とその関連病院の
立地の良さを活かす!

セミナーを開催

85企画に

927名が参加した

得意分野を活かす!

例えば...

- 診療科を超えた研修が可能
腎臓内科 → 腎臓外科
(腎移植を学ぶ)
- 他大学にない施設を持つ大学
が積極的に受入を行う
- 希少な症例について、共同で
調査および研究が可能



● シミュレーターを活用

VISTセミナー
内視鏡セミナー

● ウェットラボを活用

脳死下臓器摘出セミナー
手術手技セミナー
ESDセミナー

● 各大学が得意とするセミナー

漢方セミナー
地域医療セミナー

● 5大学合同カンファレンス

etc...

今後の課題...

文科省中間評価の結果

総合評価A

- ・「人事権における医局間・大学間の壁」を課題として認識し、それを乗り越えようと努力しているので、成果を期待したい。
- ・連携大学の組み合わせとしては、人の移動がしやすく、実績を上げつつある。
- ・大学病院のセミナーに関連病院の研修医が参加できるように配慮している。
- ・シミュレーターを利用した効果的な連携教育が頻繁に行われている。
- ・5大学の連携により希少な症例について、他大学での調査および共同臨床研究が開始されている。
- ・地域医療での「大学病院を基幹とした医師プール」の考え方は理解できるので、今後、集めた医師を実際に地域に派遣して医師不足解消に貢献することを期待する。

お問い合わせ

「東関東・東京高度医療人養成ネットワーク」事務局
筑波大学附属病院総合臨床教育センター

TEL 029-853-3339

E-mail info@5renkei-tsukuba.jp

URL <http://www.5renkei-tsukuba.jp>

